



学校だより 第7号

木城町立みどりの杜木城学園

11月 木の苗木



令和6年11月15日(金)
文責：松ノ木 陽平

生涯学習のつどい学校編

11月9日(土)に生涯学習のつどい学校編が行われました。これは、地域・保護者の皆様方に、学校や子どもたちのことを少しでもご理解いただき、生涯学習の機会となるようにと企画した地域公開参観日です。まずは、体育館でオープニングを行いました。内容は、中之又地区で神楽を習っている学園生による「浦安の舞」、海外派遣事業(台湾)に参加した学園生の代表による発表、校内合唱コンクールで金賞を受賞した9年1組による合唱「友～旅立ちの時～」でした。初めての試みでしたが、それぞれ完成度の高い発表となりました。そして、2校時から4校時まで

は、学年ごとに公開授業を行いました。多くの保護者や地域の方々に参観していただき、充実した一日となりました。

各学年の様子



1年：おちばのおめんづくり



2年：親子で木作品を作ろう



3年：安全なくらしを守る(消防団)



4年：くらしをささえる土木の仕事



5年：農業について語る会



6年：子どもに伝えたい性のはなし



7年：方言と共通語



8年：立志のつどい(職場体験での学び)



9年：模擬面接(高校入試に向けて)

小グラウンドに新しい花壇ができました。

生涯学習のつどいと同じ日に、4年生の授業に講師として来ていただいた土木事務所と保護者有志による花壇づくりが行われました。とても立派な花壇ができました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。このすばらしい花壇に植える花を検討中です。来春には、ここに色とりどりの花が咲き誇るようにしていきます。



木城っ子安全守る隊・応援隊感謝集会

11月7日（木）に、木城っ子安全守る隊・応援隊感謝集会を行いました。学園生の毎日の登下校中の安全を見守ったり、校外学習等で学園生が校外に歩いて出かけるときにサポートをしてくださったりしている木城っ子安全守る隊・応援隊の方に6年生から感謝の手紙と感謝状が贈られました。隊員の代表の方から、学園生の元気なあいさつが元気の源になるというお話を聞いて、学園生は日頃の自分たちのあいさつを振り返るよい機会になりました。最後に校歌を全員で歌い、歌の贈り物をしました。とてもやさしい気持ちになれる時間となりました。



ヘルメットマイスター任命式

11月13日（水）に、ヘルメットマイスター任命式が行われました。高鍋警察署と高鍋地区安全協会から、ヘルメット着用が「自分の将来を守るもの」「交通事故による被害を軽減させるもの」であるという意識を高めてほしいということで、本校の7～9年生がヘルメットマイスターに任命されました。これを機に、登下校時のヘルメット着用はもちろんのこと、休日に自転車に乗るときにもヘルメットを着用して、木城町民のヘルメット着用率アップに貢献してまいります。



耕心コーナー 育てるということ

北俊夫氏は次のようなことを言われています。

子供は本来、生命力や成長を内に秘めています。これらを引き出し、さらに伸ばすには、周囲の教師や保護者の関わり方が重要になる。結果や成果をせいては事を仕損ずる。腰をじくくり据え、時機が来るのを待つ、心のゆとりが欲しい。子供により良い成長、発達を促すには、先回りして準備したり、将来遭遇する阻害要因を取り除いたりすることも大事だが、今求めていることを察知し、タイミングよく施すことが重要ではないか。過干渉や無関心や放任は禁物だ。子供を育てる時、型にはまった画一的な指導やしつけは行わない。同一性を求めすぎると、子供に同調圧力がかかり、ストレスを生み、自立の遅れにつながるからだ。それぞれの子供がより良く成長していくには、教師や保護者が子供のよさや可能性を見だし引き出すとともに、子供が最適な環境の中で、周囲の人たちと適切に関わることだ。子供を育てるとは、当事者の意思と可能性を信じ、愛情をもって接すること、支えること、そして腰を据えて待つことだ。一人ひとりにその子らしい花を咲かせたい。

： タイミング良く施す、そして腰を据えて待つこと。正直、いずれも難しいことです。しかし、本学園の一人一人の学園生にその子らしい花を咲かせたいという思いは、保護者、地域の方々そして教職員の強い思いです。

先日、生涯学習のつどい学校編が盛大に行われました。ご参加ありがとうございました。私自身、多くの笑顔や柔らかな眼差しを見ることができ、幸せを感じる時間を過ごすことができました。

（校長）